

赤羽有紀子選手 北京オリンピック代表に



6月30日、赤羽有紀子選手(芳志戸、ホクレン所属)が、日本陸上競技連盟理事会において、北京オリンピック女子10,000mの代表に決定しました。また、7月13日に行われたホクレン・ディスタンスチャレンジ北見大会では、5,000mでも15分06秒07の自己記録(日本歴代3位)でオリンピック参加標準記録Aを突破し、2種目の北京オリンピック出場権を獲得しました。



(写真提供 ホクレン)

目標であったオリンピックへ
代表決定後の記者会見で「日本初の現役ママさんランナーだから」という理由で注目されるのは嫌だった。実力で代表になれてうれしい」と語ったとおり、赤羽選手は、トップアスリートとして、強い信念を持って練習や試合に臨んできました。「長女(優苗ちゃん)が生まれてからは、目標をはっきりと言葉にするようになった」と言うのは夫で専任コーチの周平さん。所属するホクレンの理解もあり、芳賀町の自宅を練習拠点に自己記録の更新を重ねてきました。昨年12月には女子10,000mのオリンピック参加標準記録Aを突破し、オリンピック代表の有力候補となっていました。しかし、北京オリンピック出場は日本陸上競技選手権大会の結果次第。多くの人の期待とプレッシャーの中、見事に北京オリンピック代表の夢をつかみました。芳賀町初のオリンピック選手であり、日本初のママさんランナーである赤羽選手。北京では、日の丸を背負い、世界を相手に走ります。



赤羽有紀子選手来庁

7月4日、赤羽有紀子選手と周平さんが役場を訪れました。役場玄関前には、町長・議長をはじめ、職員・町民など多くの人が集まり、お二人を拍手で迎えました。

町長・議長との会話では、記者会見などの緊張した表情とは違い、地元に戻った安心感からか、赤羽選手は終始穏やかな表情を浮かべていました。北京オリンピックに向けての抱負を、赤羽選手は「日本選手権では、皆さんの声援のおかげで頑張ることができました。北京でも、いい走りができるよう頑張りますので、応援をお願いします」、周平



さんは「町内でも練習していますので、見かけたら声をかけたいです。北京に期待してください」と話してくれました。

4月に発足した赤羽有紀子選手芳賀町後援会の会長でもある豊田町長は「芳賀町初のオリンピック選手誕生を誇りに思います。オリンピックでは勝負わずに、リラックスして力を存分に発揮して走ってください」と語りました。

レースまで残すところ約2週間。周平さん、優苗ちゃんと家族3人4脚で目指してきた世界の舞台は目の前です。多くの人の期待を胸に、北京でもガンバレ!!



Profile Yukiko Akaba

赤羽有紀子(あかばゆきこ)

1979年生まれ。陸上選手。ホクレン女子陸上部所属。芳賀中学校入学と同時に陸上を始め、県立真岡女子高等学校を経て城西大学に進学。1999年のユニバーシアード競技大会ではハーフマラソンで銀メダル、2001年の同大会では10,000mで銅メダルを獲得した。全日本大学女子駅伝では、4年連続で区間賞を獲得。大学卒業後は、北海道の実業団チームのホクレンに所属。2005年に大学の同級生だった周平さんと結婚。これを機に、周平さんが専任コーチとなる。2006年には長女優苗ちゃんを出産。以降、家族3人4脚で世界を目指してきた。自己ベスト記録は、5,000m 15分06秒07(日本歴代3位)、10,000m 31分15秒34(同4位)。2007年12月は10,000mで、2008年7月には5,000mでオリンピック参加標準記録Aを突破している。ハーフマラソン1時間08分11秒(同3位)。身長158cm。血液型O型。好きな食べ物は寿司(トロ)。趣味はお菓子作り・昼寝・食べ歩き。陸上を始めたきっかけは、小学校1年生の時に出場した梨の里マラソン大会だったとか。赤羽選手が小学校2年生の時に出した同大会の記録は未だに破られていない。



(写真提供 ホクレン)